



すみだリーディングファクトリー2018 選定企業



+ すみだリーディングファクトリー +

優れた技術・技能や就労環境整備・人材育成等において、特徴的・先進的な取組を行う区内のものづくり企業を「すみだリーディングファクトリー」として区が顕彰し、区内外に広くPRすることで、選定企業の優位性を訴求し、業務向上に資するとともに、区内産業全体のイメージアップを図ります。

平成29年度は、「すみだリーディングファクトリー2018」として11社を選定しました。

選定は、隔年で実施し、その翌年度は選定企業のPRを行います。

選定部門

◎ 技術・技能部門

優れた技術・技能を有する区内中小企業

◎ 就労環境整備・人材育成部門

障がい者雇用等、多様な人材の就労環境整備及び人材育成に力を入れ、特に顕著な実績を有する区内中小企業

◎ 地域貢献活動部門

地域貢献活動に積極的に取組み、特に顕著な実績を有する区内中小企業

「すみだリーディングファクトリー 2018」 選定企業

- ◆ すみだリーディングファクトリーについて 1
- ◆ 目次 2
- ◆ 選定企業紹介 3～13

「技術・技能部門」選出

- 岩澤硝子株式会社 3
- 株式会社 塩入製作所 4
- 墨田革漉工業株式会社 5
- 墨田硬質クローム鍍金有限会社 6
- 向島めうがや 7
- 山口産業株式会社 8
- 株式会社 ヨシズミプレス 9

「就労環境整備・人材育成部門」選出

- 株式会社 東電工舎 10
- 竹内工業株式会社 11
- 吉田テクノワークス株式会社 12

「地域貢献活動部門」選出

- パキュームモールド工業株式会社 13

- ◆ 掲載企業マップ 14



「技術・技能部門」選出

岩澤硝子株式会社 <ガラス成形>

多彩な製法と優れた職人の技術で 多品種なガラス製造



岩澤硝子は食器や調味料入れなどの製造を得意とするガラス成形メーカーである。トロフィーや雑貨などもカラーバリエーション豊富に製作する。

さらに、多様な製法によるガラス製造が可能なのも同社の強みだ。元来、レンズと醤油差しをメインに製造していたため、伝統的な「プレス製法」と「圧迫製法」を兼ね備える。

これを同時に行える事業者は全国的にも稀で、それこそが2つのパーツからなる「ねじ口の醤油差し」を生み出し、同社のロングセラー商品となった。

また、墨田区の地域ブランド「すみだモダン」にも認定されている「江戸前すり口醤油注ぎ」は、職人の手で瓶と蓋をすり合わせる卓越した技術に、ご当地デザインを融合させた商品で人気を博している。

チームワークも強みのガラス作り



工房の中心には「連帯釜」が構える。そこにはガラス種を熔解させるいくつもの「窯」が収まり、これこそが江戸硝子を生み出す岩澤硝子の心臓部。その周囲で3～6名の社員がチームを編成し、窯からガラス種を取り出す、金型に注ぐ、形状を整える、熱を冷ますための徐冷路に流す、最後に検品する。この一連の工程には切れ目がなく、歯切れの良いチームワークでガラス作りが続く。

東京都伝統工芸士2名、墨田区優秀技能者3名を含む社員全員で最高品位の商品を提供している。



岩澤 宏太さん

岩澤硝子の想い

ガラス器は身近な物ではありますが実は贅沢品なんです。世の中にはガラスに代わる器がいくらでもあります。

例えば、震災などで物資が不足したときなど、真っ先に必要とされるものではありません。つまり生活必需品ではないのです。

だからこそ需要も減ってきているし、全国の工房も減ってきてはいますが、いま自分たちが作らなければ今後は無くなってしまいう物も多いのです。

伝統ある硝子産業ですから、同業社様の特に若手とも情報交換しながら共存共栄で続けていければと思います。



すみだモダン認定
「江戸前すり口醤油注ぎ」

岩澤硝子株式会社

代表取締役 岩澤 宏太

〒131-0043 東京都墨田区立花 4-14-20
TEL 03-3616-0401 / FAX 03-3618-2577
HP <http://www.iwasawa-glass.co.jp>
E-mail: question@iwasawa-glass.co.jp

「技術・技能部門」選出

株式会社塩入製作所 <機械加工・工業彫刻>

顧客の幅広いニーズに応える 高精度な超微細彫刻



塩入製作所は顕微鏡で加工物を見ながら細かな彫刻を施す精密刻印や超微細彫刻、精密金型部品の製作などの分野で活躍する企業である。また、金型部品加工のために生産性の高い放電加工機やマシニングセンターなど多彩な高性能設備も導入し、顧客の幅広いニーズにも応えている。

一般的に工業彫刻の分野では作業図面があって、はじめて固い材質への加工作業が始まるが、同社は「必要であれば図面もおこします」と提案型の営業をモットーとする。図面の無い商品については顧客と緊密にコミュニケーションを図り、創意工夫を重ねてゼロベースからの加工も行うことで信頼を獲得し、リピート受注にもつなげている。

彫刻の技術を生かした金型部品加工



塩入製作所は自動機と呼ばれる高性能な設備のほかに、汎用機と呼ばれる「人の手が離せない」機材も保有する。それは同社が微細彫刻専門メーカーとしての経験があるからだ。

汎用機とそれを使いこなす繊細な技術があるため、マシニングセンターなどの自動機に取り付ける超微細な刃物を作り出すことができる。他社では真似のできない自前の刃物が生産性や加工精度を大幅に向上させており、それが同社の優位性にもつながっている。



塩入製作所の想い



村松 大輔さん (工場長代理)

私たちの仕事は商品の小売ではありません。受注生産の仕事なので、何よりもお客様第一で考えます。困っているお客様、急いでお客様、様々なニーズがあるわけですが、その案件がうまくいって「次も塩入さんに任せておけば安心だ」と言ってもらえるように、そしてお互い気持ちよく仕事ができるように努力しています。

また、この業界はとかく高齢化が顕著であると言われていますが、当社は若い社員が多く、技術の継承もスムーズに行われており、現代社会に即した仕事ができていると思います。



若手にも技術が継承
タガネを使用する精密刻印

株式会社塩入製作所

代表取締役 小泉 源一郎

〒130-0005 東京都墨田区東駒形 2-16-10

TEL 03-3624-3381

H P <http://www.shioiri.net/>

「技術・技能部門」選出

墨田革漉工業株式会社 <皮革加工>



多彩な加工技術による 様々な革素材製造

墨田革漉工業は創業以来、長きに渡って培った技術で皮革の表面加工を行い、優れた革素材を提供する。その技術は型押、アイロン、ブリーツ、箔やフィルム張り、カッティングなど、数え上げれば枚挙にいとまがない。こうした多彩な加工法の組み合わせで海外のブランド品に対する競争力の向上に努めている。

一例として、パンチングと呼ばれる抜型を使って革に穴を開けたり、模様を付けたりする加工を行うことが可能なのは都内でも数軒。その抜型も70種を準備する。また、イタリア製の機材を使うナイフカット加工は全国でも唯一の技術。さらには樹脂を積層させ、フィルムを貼ることで革が膨らんだように立体的に見せる3D加工は本場イタリアでも最新の技術である。

職人による確かな技術



なめし上がった動物革は天然の素材。1枚1枚大きさも違えば厚みも違うため、靴や鞆、バッグやベルト等、使用目的に適した厚みや大きさにスライスしたり断裁したりする必要がある。

さらに、断裁すると革は縮む。その縮み具合は部位によって異なり、ビッグスキンの場合はお尻よりお腹の部分で収縮率が大きくなる。天然素材であるがための難しさだが、墨田区優秀技能者に認定された職人をはじめ、経験豊富な職人が確かな技術でこれを調整する。

これも墨田革漉工業の品質が支持される大きな要素である。



佐藤 元治さん

墨田革漉工業の想い

私たちは食肉文化の中で生きています。皮革加工業は人類が食わずに残った動物の皮を無駄なくリユースしていくのですから、本当に素晴らしいことだと思います。

墨田区はビッグスキンの産地だったので、地場産業としての皮革加工業が大変発達しました。昭和50年頃までは近隣でも100軒ほどの事業者が革の様々な加工をしていましたが、現在はだいぶ減少しています。

弊社はこれからもますます競争力を高めて頑張っていきたいと思っています。



パンチング加工で
魅力ある素材に

墨田革漉工業株式会社

代表取締役会長 佐藤 元治
社長 佐藤 泰二

〒131-0041 東京都墨田区八広4-43-4
TEL 03-3613-2131(代) / FAX 03-3619-5380
HP <http://www.sumidakawasuki.com/>
E-mail: skltd@nifty.com

墨田硬質クローム鍍金有限会社<めっき>

徹底した品質管理と技術で 幅広い表面加工に対応



墨田硬質クローム鍍金は工業用クロームめっき加工を主軸としながらも、無電解ニッケルめっきやサンドブラスト加工など、金型や機械部品等への表面処理加工を得意とする。

また、高い技術を必要とするダイヤモンドペースト研磨にも取り組む。従来の研磨剤では残ってしまうことのあるピンホールを抑える鏡面研磨も可能となった。

これらの研磨剤、研磨装置やバフを各種取り揃え、徹底した品質管理のもとで大きな製品から小さな部品まで幅広い表面加工に対応している。

プラスチック加工やゴム加工、プレス等の各業界に対しては金型製造から提案を行う。特定の金型に必要なとされる表面処理のベストな方法を複合的に選択し加工を施している。

オリジナルの「Sコート」を開発



社長の石崎氏は職業訓練指導員としても活躍。東京都鍍金工業組合での技術指導も行ない、その技術と知識は業界全体に還元されている。

一方、自社内においては優れた技能の継承が速やかに行われているため、若く優秀なスタッフが揃っており、自社オリジナル「Sコート」の開発にも成功。これは医療器具用や自動車部品用などのフッ素ゴム素材に対して求められる金型の離型性（ゴムの離れやすさ）と流動性（ゴムの入り込みやすさ）を同時に実現。この2つの性能を兼備する従来のめっきは少なく、析出装置も含め非常に高い評価を得ている。



墨田硬質クローム鍍金の想い



石崎 利一さん

横のネットワークを幅広く構築することが重要だと考えています。自社の設備で足りない部分においては、同業者に対して技術提供を行っていくことで、金型に求められる表面処理はすべて可能になります。

また、今の時代はセールスエンジニアを求めています。営業しかできない、技術しかないでは真に市場が求めているものを提供できません。奥行きのある知識も自他ともに認める技術も兼ね備えないといけません。それは長年の蓄積によって会得するものですが、日頃からそういった事を常に頭の片隅に置いておくことが必要だと思います。



各種認定資格を取得している社員

墨田硬質クローム鍍金有限会社

代表取締役 石崎 利一

〒131-0041 東京都墨田区八広 4-15-11
TEL 03-3613-3311 / FAX 03-3613-3312
HP <http://www1.speednet.ne.jp/~sumidacr/>
E-mail: sumida-hcr@spn1.speednet.ne.jp

「技術・技能部門」選出

向島めうがや <足袋製造>



秀逸な手法と繊細な技術が織りなす こだわりの足袋づくり

向島めうがやの門を叩くお客様は地元墨田や東京の人ばかりではない。遠く離れた土地からも風の便りをもとに、自分だけの足袋を作るために訪ねる人も多い。それは秀逸な手法と繊細な技術を伝承している「向島めうがや」だからこそ。各々の足の形状や大きさに合わせて完全オーダーメイドが可能なのである。例えば裁断。抜型を使って生地を一定の形に仕上げるのが一般的だが、ここでは毎日欠かさず研磨する丸包丁で「手裁ち」をする。これこそが店の伝統であり、緻密な調整を可能にするこだわりの技術である。

最盛期には都内で約2000軒あった足袋専門店が現在では全国に数軒となってしまった。そういう意味でも大変貴重な店である。

お客様の足は十人十色



お誂えの足袋は5つの工程を経て完成する。「採寸」は左右それぞれ30項目もの計測とチェックを行い、場合によって写真を撮るなど様々な記録を残す。「型紙作り」と「生地の裁断」は日々使用している裁ち台で丸包丁を使い手裁ちする。「縫製」は各種のミシンを使い分けるが、つま先縫いに使用するものは100年前から使われてきたつま付けミシンを使用。これは永年の経験と技術が要求される最も難しい工程である。

最後の「仕上げ」には返し棒と木型を使う。より履きよい足袋、美しい足袋になるよう、真心をこめて仕上げる。



石井 芳和さん

向島めうがやの想い

近年はナイロン等の伸びる素材の足袋が多く出回っていますが、本来白足袋は極上綿キャラコの風合いが一番。私共では素材選びから履き方、手入れまでお客様に丁寧にお伝えしつづけていきたいと思っています。

また、足袋を履く人が減少しているのは時代の変化ですが、それでも自分にあった足袋を求める人が当店に足を運んで下さいます。そういった方々が出来上がった足袋を履いてみた時に大変喜んで頂ける、それは何にも代え難い瞬間です。

これからもお誂えを商いの中心と考えて日々一生懸命足袋作りに励んでまいります。



綿キャラコ足袋のほかにも
小紋・市松・細縞柄など

向島めうがや

五代目店主 石井 芳和

〒131-0033 東京都墨田区向島5-27-16
TEL 03-3626-1413 / FAX 03-3626-1413
HP <http://www.mukoujima-meugaya.com/>
E-mail: info@mukoujima-meugaya.com

「技術・技能部門」選出

山口産業株式会社 <皮革製造>

人にも環境にも優しい 天然由来の独自技術



山口産業は1938(昭和13)年の創業以来、一貫して墨田区でビッグスキンをはじめとする皮革製造を行ってきた。1990(平成2)年には人にも環境にも優しい「なめし」技術を完成させる。クロムでなめした皮に対してアレルギーがあった現社長。その様子に鑑みた先代社長の「もっと肌にやさしい革を」との発想から生まれた技術でもある。

この天然皮革のなめし製法を「ラセッターなめし」と呼称する。なめしの過程でミモザの枝や幹を粉砕した植物タンニンを使用することで自然環境や人体に有害な物質の排出を最低限まで抑え込むことに成功。

こうして完成した「ラセッターレザー」は敏感な赤ちゃんの肌にも安心。再利用後には土壌に還すことも可能だから、将来の地球環境にもやさしい。

地域活性化プロジェクトMATAGI



全国的に社会問題となっている鳥獣被害。それがゆえに駆除されてしまう動物たちの皮。

山口産業はこうした皮を引き取り、ラセッターなめしを行ったうえで産地に還すMATAGIプロジェクトを続けている。その産地では皮革の二次加工を行い、優れた魅力ある地元産品として再生させることができる。

さらに、真の循環型社会の構築には頂いた命を最後まで使い切ることが必要である。革端切れまで有効に使い切るラセッターリデュースプロジェクトもスタートしている。



山口 明宏さん

山口産業の想い

海外、特に農業国でクロムなめしによる動物皮の産業化が進んでいますが、急速な開発で労働環境や素材の安全面で問題が顕在化しています。そこで、ラセッターなめしによる安全で安心な革づくりができるよう協力しています。

「なめし」は墨田区で培われてきた産業です。革作りをする企業が事業を続けていけるように、地元の方と協力しながら仕事をしていきたい。そこから生み出される雑貨や靴などは身近な物。だからこそ、この伝統産業をご理解いただける活動を続けていきたい。



ラセッターから生まれた
サッカーボール

山口産業株式会社

代表取締役社長 山口 明宏

〒131-0042 東京都墨田区東墨田3-11-10
TEL 03-3617-3868 / FAX 03-3613-3239
HP <https://www.yamaguchi-sangyou.co.jp/>
E-mail: master@yamaguchi-sangyou.co.jp

「技術・技能部門」選出

株式会社ヨシズミプレス <精密金属プレス加工>



金型からの形状提案による 納期短縮と高品質の両立

ヨシズミプレスは電気部品や文房具部品、自動車部品などの中でも特に小物部品の精密金属プレス加工を得意とする。何でも小型化する時代にあつて、顕微鏡で見なければ違いが判らない精密なプレス加工を行う。

狭い地域の狭い工場であるため、必然的に大きな物は生産できない。突き詰めていくと「小さな物を大量に」という発想から外観や寸法精度などに厳しい小さな製品を中心に60年以上の実績を積み上げてきた。

同社の大きな特色の一つがプレスを行うための金型製造から提案を行うこと。プレスの回数を削減できる無駄のない金型製造が納期の短縮と高品質な製品を実現。しなやかな知恵と高度なテクニックが省スペース化にも効果を発揮している。

豊富に揃うプレス加工機と工作機械



工場内には10t～80tまで、大小30台ものプレス加工機がそれぞれ所狭しと並んでいて、軽快なリズムと共に次から次へと小さな部品が出来上がってくる。プレス台数が多いため短納期の量産依頼にも対応が可能である。

さらに金型加工用の工作機械設備を豊富にラインナップ。ワイヤーカットや細穴放電加工機、マシニングセンタをはじめ各種取り揃えることで、試作から金型製作、プレス加工まで一貫した生産体制を実現。画像測定機などの検査設備は常に刷新することで品質の高い製品を約束する。



吉住 研さん (専務取締役)

ヨシズミプレスの思い

当社の電気部品や文房具部品は2つの大きなジャンルではありますが、そこだけに特化しないようにしています。業界ごとに駆使する技術が異なることがあるのですが、それは別の業界の商品へ応用できることもあるからです。それぞれの設計者に対して金型からの形状提案ができるのも会社としての強みになります。

また、プレス業界では「抜く」「曲げる」「絞る」という技術が確立しているのですが、今後は凹部を作ることで、計算して凸部を生み出す「つぶす」技術も拡充していきたいと思っています。



技術を持った職人のほか
若い社員も大勢働いている

株式会社ヨシズミプレス

代表取締役 吉住 巖

<本社工場> 〒131-0043 東京都墨田区立花4-28-2
<事業所> 〒131-0043 東京都墨田区立花6-6-4
TEL 03-3612-7541 / FAX 03-3612-2819
H P <http://yoshizumi-press.com/>
E-mail : info@yoshizumi-press.com

「就労環境整備・人材育成部門」選出

株式会社東電工舎 <電気めっき>

創業100年に向けた若い人材の雇用と マルチな育成術



東電工舎は1924(大正13)年の創業以来、工業用めっき一筋に取り組んできた。工業用クロムめっきを中心としていたが、のちに工業用銅めっきを開発、1999(平成11)年には工業用ニッケルめっきの開発にも成功した。

近年では円筒研削盤を導入。新しい設備を活用する技術を習得した結果、納期までの時間短縮も実現した。

一方、ソフト面では技能の偏りを防ぐために社員の多能工化に取り組む。また、新入社員の教育については新しい知識の取り込み、新しい技術の体得のため、入社3年以内に高等職業訓練校へ通学することを入社条件としている。

まもなく創業100年を迎える東電工舎は若い人材の雇用で技術の継承と促進を図る。

1/1000mm単位まで測定する技術



東電工舎の仕事は図面通りにめっきを施すことが極めて重要である。それには品質管理上、商品の寸法を正確に測定することが求められる。その単位は1/1000mm。マイクロメーターと呼ばれる測定器を用いるが、それを使うのは人間である。誰が測っても同じ結果が得られなければならないため、従業員全員での測定練習を行っている。

また、測定器そのものの精度を維持するため、鉄と比較して温度差による膨張の少ないセラミック片を使用して調整を重ねている。



山田 英佐夫さん

東電工舎の想い

昨今、墨田区の支援を受けて「機械要素技術展」に出展させて頂く機会がありました。弊社が開発した新製品を持ち込んでディスプレイしたところ、ブースを訪れていただけの方が想像以上に多く、人脈はもちろん視野も広がりました。

めっき業界は全国的に高齢化が進んでいることもあって、こうした展示会では大手企業さんからも声を掛けられることがあります。ぜひとも実になるように取り組んでいきたいと考えているところです。好機があれば、他の展示会にも参加してみたいと思っています。



展示会での
ブース展開の様子

株式会社 東電工舎

代表取締役 山田 英佐夫

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋3-10-9
TEL 03-3622-8111 / FAX 03-3622-8107
HP <http://www.azuma-p.co.jp/>
E-mail: yamada@azuma-p.co.jp

「就労環境整備・人材育成部門」選出

竹内工業株式会社 <化粧品容器等製造>



人材育成に対する高い意識と 多彩な就労環境整備

竹内工業は1946(昭和21)年に竹内鍍金として創業。以来、本社を墨田区八広に構え、日本人の嗜好や流行の変化に対応しながら口紅容器を作り続けてきた。現在はヨーロッパからの製造依頼も増加し、化粧品容器メーカーとして国内でも有数の企業に名乗りをあげている。

こうした大きな成長の背景にあるのは人材育成に対する意識の高さである。情報収集力を含めた組織内外でのコミュニケーション能力の向上は必要不可欠。この能力を高めるために多様な活動を行う。

就労環境の整備においても「リフレッシュゆめ工場活動」として、退勤時における机上の整理整頓や敷地内のプランター植替え活動などに社員一丸で取り組んでいる。

多様な親睦会行事



社員相互間、あるいは組織外とのコミュニケーション能力向上のため、竹内工業は非常に多彩なコンテンツを準備している。

直接的に職務に係るツールとしては「ご意見箱の設置」や、社員が書きやすい「改善提案書」などがある。これは上司と部下の間で率直な意見の交換や意思の伝達を図るきっかけ作りとなる。

また、日常の業務においては直接関わる事のない社員同士の交流を深めるため、お花見や社員旅行、ボーリング大会などの親睦会行事も盛んである。リフレッシュゆめ工場活動の一環として他社の様子を勉強する見学会も実施する。



金谷 貴光さん

竹内工業の想い

来年は創業75年の節目にあたります。近年は若い社員が増えていますが、これからの竹内工業を担っていく、そうした人たちに何を伝え、何を残していくのか。

「背中を見て覚える」という時代ではありません。社員に対してきちんとした教育を施すことで、考え方を伝え、理解を促していくことが組織の在り方とされる時代です。それが100年企業への歩みに必要だと感じています。

守るべきは品質と安全。取り入れるべきは時代の変化への対応。様々な事案に対して、明るく前向きに考えられるようにしています。



口紅容器の製造は
少なくとも毎日2~3万本

竹内工業株式会社

代表取締役社長 金谷 貴光

〒131-0041 東京都墨田区八広 2-59-2
TEL 03-3619-9081 / FAX 03-3619-9085
H P <http://takeuchi-co.com/>

「就労環境整備・人材育成部門」選出

吉田テクノワークス株式会社 <プラスチック製品製造>

数々の新技術を生み出してきた インモールドのパイオニア



吉田グループはコンパクトなどの化粧品容器を専門に製造していたが、携帯電話の普及に伴い電器製品部門の取り扱が増加してきたことから2004(平成16)年に分社した。

従来の主力部門だった化粧品容器関係は「吉田コスメワークス」に、電器製品部門は「吉田テクノワークス」となる。

1973(昭和48)年に世界初となるインモールド技術の開発を皮切りに、プラスチック製造分野の技術革新を続け、2011(平成23)年には「ガラスインサートインモールド」技術の開発に成功する。

その最先端技術が国内メーカーはもとより世界の大手電機機器メーカーを魅了する。それはスマートフォンの液晶画面拡大に大きく貢献した世界唯一の技術である。

2つの優れた人材育成制度



人材育成のプログラムにはガラス張りの昇給基準「MSH」とOJTに有効な「ジェダイマスター制度」がある。

MSHは独自の戦略的人事評価システム。「できる社員像」を社員たち自らがイメージし、作りあげた。50項目もの明確な基準が設けられ、クリアすることによってランクが上昇する。透明性と公平性に優れた仕組みで働き甲斐のある職場となった。

ジェダイマスター制度はベテランと若手が常に2人1組で業務に取り組む働き方。成長した若手は次世代の若手を教育する立場となる。このサイクルが知識や技術のスムーズな継承を可能にする優れた制度である。



吉田テクノワークスの想い



吉田 重雄さん

私たちは国内でのものづくりを大事にしたいと考えています。最先端の技術が自社で開発出来ればコスト競争に走る必要がなく、国内での生産が可能です。

その「技術の自社開発」のために何よりも重要だと考えているのが優れた人材です。価値観を共有できる人材の採用。ジェダイマスター制度による育成。そしてMSHで継続的なモチベーションのアップ。この3つの柱で優秀な人材の確保と育成に取り組んできました。

現在は栃木県足利と岩手県大船渡に生産拠点を構え、自社の商品をすべて国内で生産することを実現しています。



電器製品のほかオリジナルブランド製品も発表

吉田テクノワークス株式会社

代表取締役社長 吉田 重雄

〒131-0044 東京都墨田区文花2-11-12
TEL 03-3610-0081 / FAX 03-3613-0228
H P <http://www.yoshida-tw.co.jp/>

「地域貢献活動部門」選出

バキュームモールド工業株式会社 <金型製造>

「利他の心」に満ちた 地域に根差す企業経営



バキュームモールド工業は1958(昭和33)年の創業以来、各種の金型製作を行ってきた。特に真空成形用金型の分野では、そのパイオニアとして業界をリードする存在である。

多様な高性能工作機械を取り揃える一方で、職人的な技術力も兼ね備えている。この技術が次の世代へ継承されており、製造現場で活かされている。

2011(平成23)年には産官学金連携「江戸っ子1号プロジェクト」に参加。深海向け無人探査機「江戸っ子1号」のガラス球カバーを製作した。

2017(平成29)年には経済産業省主催、「はばたく中小企業300社」としても表彰を受けている。

同社の理念は「利他の心」。周りの人のことを考えながら判断する姿勢で地域貢献活動にも積極的に取り組む。

地域行事へは積極的に協力



会社入口付近のディスプレイには多数の感謝状が飾られており、地域住民や町会からの感謝の意が伺える。

例えば地元の氏神様、隅田川神社を守る世話人の相談役を会社組織として果たし、祭礼における神輿渡御の際には敷地を解放。飲料などの提供も行なう。

会社が所在する鐘ヶ淵町会に対しては、町会主催の野外レクリエーション等へ協力を行なうなど、非常に良好な関係を維持。

また、最寄りの駅である東武線堀切駅周辺から会社周辺にかけての清掃活動や降雪時の雪かきなどにも取り組んでいる。



枝松 和也さん(取締役 人事・総務統括)

バキュームモールド工業の想い

私どもはこの地で事業を始めて以来、60年に渡って地域に根差した様々な活動に取り組んできました。

創業者が感じていたのは「事業に対する地域の方々の理解が必要」ということです。鐘ヶ淵という町は三方を川に囲まれている土地柄、小さな事でも近隣に迷惑がかかってしまいます。繁忙期であれば時間外労働もある。わずかではありますが匂いや音も出る。だからこそ日頃から感謝の意を示していくことで事業への理解を賜りたかったのです。

現在は三代目となりましたが、この精神は今も継承しており、これからも持ち続けていきたいと思っています。



プラスチック容器を作り出す真空成形用金型

バキュームモールド工業株式会社

代表取締役社長 渡部 雄治

〒131-0031 東京都墨田区墨田5-23-11
TEL 03-3614-1556 / FAX 03-3614-8472
HP <http://www.v mold.co.jp/>
E-mail: vm info@vmold.co.jp

すみだリーディングファクトリー掲載企業マップ



平成 31 年 3 月発行

発行：墨田区産業観光部 産業振興課

〒130-8640 墨田区吾妻橋一丁目 23 番 20 号区役所 14 階

電話：03-5608-6186

掲載企業（掲載順） 岩澤硝子株式会社 / 株式会社 塩入製作所
墨田革漉工業株式会社 / 墨田硬質クローム鍍金有限会社
向島めうがや / 山口産業株式会社 / 株式会社 ヨシズミプレス
株式会社 東電工舎 / 竹内工業株式会社
吉田テクノワークス株式会社 / バキュームモールド工業株式会社

本誌掲載内容の無断転載を禁じます。